

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

図書館資料の再開発

——狩野文庫のマイクロ化——

事務部長 矢 野 光 雄

図書を最初にマイクロの形にした人は英国マンチェスターの科学者 John B. Dancer で、1853年であるといわれています。また、図書のマイクロ化を最初に行った図書館は、U.S. Library of Congress で1905年といわれていますから、図書のマイクロ化には百年余の歴史があることになります。したがって、図書資料をマイクロ化することは決してめずらしいことでも新しいことでもありません。それにも拘らず、いま、図書館や文書館、資料館等では資料のマイクロ化がホットな話題となっています。昨年11月、本学においても狩野文庫のマイクロ化事業がスタートしました。これを機会に、図書館が自ら所蔵する資料をマイクロ化する意義などについて考えてみようと思います。

1. 図書館資料

図書館資料という言葉は、広くは図書館が収集すべき対象になる資料を意味していますが、一般には図書館が現在所蔵している資料のことを指しています。そしてその特性は、利用者の読む、見る、聞くという行為のくり返しに耐え、認識し鑑賞できるコミュニケーション・メディアであることでしょう。この図書館資料すなわち蔵書をどのように構成するかは、その図書館の姿勢を具体的

に示すことといえます。なぜならば、図書館資料は図書館を構成する四つの要素、① 1 図書館資料、② 図書館職員、③ 図書館施設、④ 図書館利用者の中の最も重要な要素で、かつ、図書館サービスを展開するための基礎となるものであるからです。

本学には300万余冊の図書と5万3千余種の雑誌があります。わが国の大学図書館の中でも規模においても蔵書の質及び量においてもかなり上位に属する図書館といわれています。これらの蔵書は大学80年有余の歴史のなかで着々と蓄積されてきたもので、一朝一夕に構築されたものではありません。蔵書構築の成立を本学の歴史のなかに求めてみれば、そのときその時の関係者がいかに精力的に努力を払ってきたかが伺われます。

ところで、そのようにして収集蓄積された図書館資料の大部分は印刷資料で、経年による劣化と反復利用による損耗、あるいは虫損、汚損などによって痛みが進み情報源としての機能が失われつつあります。図書館としてはそれを防ぐ必要があります。本学所蔵の図書資料も発行されてから100年経つものが少なくありません。修復と保存対策が迫られています。しかし、図書館の資料は、単に保存することが目的ではなく利用に供することが目的ですから、保存と利用が両立するものでなくてはなりません。マイクロ化はそれを具体化する有効な手段の一つといえることができます。

2. メディアの変換

情報化時代に入って、図書館界にも電子図書館という名が現実味を帯びてきています。その中味は今のところ定かではないようですが、科学技術の急速な発達からみれば、早晚、具体的な姿で出現するものと思われます。人類は、それぞれの時代と社会の中で、多種多様なメディアをつくり、知識・情報を記録してきています。そして、そのことによって時間的、空間的な制約をのり越え、過去の知識にアクセスしたり、遠隔地との情報交換を可能にしたりしてコミュニケーションを行っています。

このたびマイクロ化の対象となった狩野文庫は江戸期の資料です。和装本が中心で、多くの写本が含まれています。利用者は、学内研究者ばかりでなく全国各地からの来館者及び複写依頼による利用要求があとを絶ちません。従って、この部門の担当者は、業務の煩瑣と複写物の品質の保持、及び原典保全に対する細心の注意にエネルギーを割くことになります。狩野文庫は江戸文化研究の一大宝庫といわれているだけに、粗雑な取り扱いはできないからです。複写による情報要求が多いということは、狩野文庫の資料を用いた研究が複写された情報源で役立つことを意味しています。であるならば、より安定した、品質のよい複写製品を提供するため、マイクロ形態へとメディアを変換し、図書館資料の有効利用を図ることができるのではないだろうか。そのような考えから、今回のマイクロ化は、マイクロ出版という形をとっています。

3. 情報流通とマイクロ出版

図書館という名称の由来が、図書を所蔵する建物であるといわれるように、かつての図書館は、

図書を収集整理し保管するところでした。この機能は、今後においても依然として存在しつづけることでしょう。しかし、今日では図書館の機能は、ストックからフローへと変わりつつあります。ニューメディアの出現と通信技術の高度化に伴って、図書館資料も多様化し、それと共に資料組織の技術も保管の技術も、すべてが利用者の利用要求に容易に対応できるよう動いています。図書館サービスは、「いつでも、どこでも、だれにでも」と情報要求者の情報要求に応えるべく組立てられています。

図書館蔵書のマイクロ化は、これまで多くの場合、原典の延命を図るのが主たる目的でした。これに対して狩野文庫のマイクロ化事業は、岡山大学の池田家文庫と同様、原典の保存対策と同時に、マイクロ出版物として、広く国内外に流通させ、学術の研究に寄与することを意図しています。今まで、時間的あるいは地理的条件などから利用が制限されてきた研究者には、商業流通組織を介してマイクロ版狩野文庫が入手でき、自分の所属する機関の蔵書に、また、個人の蔵書に加えて利用することも可能でしょう。また、本学図書館としても、本学への複写依頼に対し、自動検索システムのセットされたマイクロ版から、質のよい複写製品を迅速に、かつ容易に提供できることが期待されています。豊かなコレクション構築は図書館にとって非常に重要です。いま、わが国では学術情報センターを核に大学図書館ネットワークが整備されつつあります。すでにご案内のとおり、このネットワークは、学術情報資源を共有し、その有効利用を図るという考えに基づいて進められているものです。情報源の所在と所蔵が明らかにされ、求める資料へのアクセスが容易になろうとしています。情報源の入手にはまだ改善すべき点が多々あるように思われます。それは、利用制度の面だけではなく、資料そのものの持つ特性

にもあると考えられます。貴重書や特殊コレクションなどはその一例としてあげることができます。

4. 資料の再開発

「形あるものいつかは失せる」ことは止むを得ないことですが、図書館の機能の最終目的が利用サービスにある限り、利用による損耗が資料の寿命を早めることは否定できません。だからといって、利用させないのでは図書館の役割は果たせな

くなります。従って、文化遺産として後世にまで残す資料については、当該資料を複製出版し、利用提供には複製版で応え、原典は早急に保存措置を講じなければ将来に悔を残すことになりかねません。本学のように多くの貴重本を所蔵している図書館では、誰もが考えることですが、もっている蔵書を生きかえらせ、新たな需要を生み出すためにも、図書館資料の再開発が具体化できないだろうか。複製出版、マイクロ出版、あるいは電子出版などの方法はいかなるものか。思案されるこのごろです。 (やの てるお)

狩野文庫のマイクロ化の計画と経緯

情報管理課長 兵 永 朗

狩野文庫のマイクロ化の撮影が始まったばかりであるが、図書館にとっては撮影事業が始動してしまうと半分以上が終わったようなものである。これからマイクロ化したいと考えている大学もあると思うので、これまでの経緯をふり返ってみることにする。

1. 資料保存対策としてのマイクロ化

資料保存の問題は図書館界では古くて新しい問題である。酸性紙が話題になってから、資料保存問題が館界の緊急な課題となり、第4回日米大学図書館会議や国立大学図書館協議会でも議論されている。

しかし、我が国ではいまだ調査段階であり、どうすればよいかの方向が決まっているわけではな

い。酸性紙は100年が目途といわれているだけに急がねばならない状況にある。この時期に国会図書館が明治期刊行図書のマイクロ化に踏み切った英断は評価されてよい。これには国会図書館のみならず、120年記念事業として採算を度外視してこの大事業に資金を投入した丸善の決断があったからである。

これまでマイクロ化というと時間と資金を要するものだと思われていたが、資金は企業がだして、17万冊を1年半で完成させて、図書館はマイクロフィルムを2セット入手できたのである。しかも、従来のマイクロフィルムと違って、検索が簡単にでき、画像も非常に鮮明になった。なお、フィルムの保存も特殊処理によって500年は可能となり、保存用ネガをコピーすれば永久に保存が可能である。しかも、マイクロにしておくことによって光

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

**このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。**

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

今後学内外はもとより世界の研究者にとって、多大な便宜を提供できると共に、日本文化の研究に多くの貢献をすることを大いに期待しております。

最後になりますが、関係の皆様方におかれましては、尚一層のご支援を賜われますようお願い申し上げます。

上げますと共に、貴学及び附属図書館が東北地区さらには我が国の学術情報の発進基地として益々ご発展されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成3年11月25日

学内特殊コレクション紹介

狩野文庫について

「狩野文庫」、秋田大館出身の文学博士狩野亨吉(1865-1942)の蒐書である。約3万5千点、11万冊、線装本の和漢書古典が主体であるが、博士歿後に受入れられた約2万冊には、明治期以降の出版物と洋書も含まれている。第一高等学校長—京都帝国大学文科大学長を歴任、明治の教育界に赫たる名声を馳せた思想家狩野亨吉についての改めの紹介は避けるが、昭和40年代頃より紹介研究が高まり、現在では青江舜二郎氏の大著の伝記資料「狩野亨吉の生涯」(1974, 明治書院 1987, 中央公論社)、狩野亨吉の学問的・思想的な面を掘り下げた鈴木正氏の「狩野亨吉の思想」(1981, 第三文明社)などの代表的な著作も見ており、更には、狩野亨吉により発掘された江戸の思想家安藤昌益に関する一連の研究書の内、例えば和田耕作氏著「安藤昌益の思想」(1989, 甲陽書房)などにも“真正の哲人・狩野亨吉”の章節が設けられ、狩野亨吉の人と学問が丁寧にまとめられておるなど、比較的狩野亨吉に関する研究と資料も多いことを紹介しておこう。

「狩野文庫」の第一の特徴は、蒐書が古典の全分野にまたがっていることと、各分野バランスのとれた形で構成されている点である。約11万冊と

いう数量は、個人の蔵書という観点を離れると決して大きな数字ではないかも知れないが、範囲の広い歴史・文学のジャンルを主体とするものの、書目に始まる総記類、哲学・宗教類、美術・工芸類、法制・経済類、数学・理学・医学類、工学・兵学類に亘る、古典世界といえども人文・社会・自然の各科学分野の小さな項目までをも網羅する形の蔵書の展開と構成は、“古典の百科全書”“江戸学の宝庫”の称呼を以て研究者に親しまれる所以となっており、その内に和算書類(約2千点)、古地図類(約1千2百点)、草双紙類(約5百点)などの量的にもまとまりのある聚書群をおりまぜていることで、全体の量的なものとは別個の充足感を与えてくれている。

このような蔵書構成は、“(前略)学生時代に日本の思想史というものを調べて見たいと云う考がありまして、(中略)併し思想と云っても単に哲学とか宗教とか云うようなことに限らないで、科学でも芸術でも皆入れてやる積りであったのですから何となしに集めたのです”(昭和11年、座談会にける発言)という狩野亨吉の研究者意識と、加えて幼少時代からの“本好き”の性向とが合致したところに築き上げられたもので、決して単な

る結果としてのものではなかった。このことに関連させると、狩野文庫が、大正元年の本体第一次の納入後、狩野亨吉本人の手により大正12年、昭和4年の二次にわたり、本体の蔵書を補充する形で2万余冊も追加されていることも決して故なきことではないと云えよう。

性来の読書家・蒐書家として培った素養を生かして、教育界から離れた後半生を書画鑑定家として身を立てた狩野亨吉、その書誌学者としての側面は「科学的方法に拠る書画の鑑定と登録」（昭和5年、講演—狩野亨吉遺文集所収）ほか、昭和初年時における蔵書印譜・落款印譜関係の編纂に関与した部分位しか形あるものとしては知られていないようである。勿論上記の「科学的方法による……」は、書誌学というよりは歴史観・科学観全般に及ぶ論説であるが、けだし鑑定における直観を排する科学的立場を強調するもので、科学を根幹に据える狩野亨吉の唯物論的思考が強く打出されているものである。

書誌学者狩野亨吉の研究は或る意味でこれからの課題と云えるものであるが、ともあれ「狩野文庫」の次なる特徴として、蒐書の平均的な“質の良さ”が各分野の研究者から指摘されていることを挙げねばならない。“書誌学の宝庫”と評されることもあるように、和漢書古典の写本・刊本とも実に多様な線装冊子が集められている。国宝「史記孝文本紀卷第十」（平安末期写）「類聚国史卷第廿五」（平安末期写）を筆頭とする古写本類から、江戸期の各分野の原本・稿本類、その類を含めての未刊本類、約1万3千点の写本の数々のなかにはまだまだ未知のものが隠されている。そういう線装本の多様さは刊本の部でも同じである。宋・元・朝鮮の古版本、春日板・五山板・古活字版の古刊本の内には、胡蝶装、嵯峨本の装訂も見え、近世木活に至る官版・藩版・家刻・坊刻の江戸刊

本もひと通りの姿を揃えている。加えて、儒学関係書を中心とする名家の書入れ、或は著名な蔵書印の数々、初印本の多さ、等々特徴的なことも枚挙のいとまがない。更にはこのような内容の豊かさに彩を添える形で刊本・写本を問わない絵入本の多いことも指摘されており、“見て楽しめる狩野文庫”として折々の展示会で親しまれる所以ともなっている。

「狩野文庫」和書篇のマイクロ化に際して、従前は殆ど利用されていなかった青写真類（昭和初年のリコピー、狩野亨吉が作成したもの）の原本の書誌事項を調べる必要に迫られた。その調査の過程で、青写真ものの原本の大部分が希覯書で、なかには、この時点では原本散逸で狩野文庫のコピーのみ存するとき例も出て、改めて狩野亨吉のこの面における識見のごときものに驚かされたことでもある。

「狩野文庫」マイクロ化は、文庫全体としての、又、個々の資料としての、尽きない興味と研究課題を惹起してくれることを、館の立場からも確信するものである。



医学分館に「医学情報検索コーナー」開設

医学分館 事務長 小 野 和 夫

平成4年1月10日、医学分館エントランスホールに開設された「医学情報検索コーナー」の披露が行われ、関係者30数名が参加した。

これは、医学情報検索に頻用される索引や抄録などの二次資料がCD-ROMやFDなど電子媒体で発行されるようになったため、MEDLINEについてはすでに去る5月からパソコン2台で試用中であったが、さらに5台を追加し、主要な二次資料等5種を同一場所で検索できるようにしたものの。

同コーナーで索引できる二次資料等の種類は、次のとおり。

MEDLINE (CD-ROM, SilverPlatter)	2 セット
EMBASE (CD-ROM, Excerpta Medica)	1 セット
CC, Life Sci. (FD, ISI)	1 セット
医学中央雑誌 (CD-ROM, 同社)	1 セット
Dr. CAI (FD, 日本医事新報社)	3 セット

披露式は、林医学分館長から挨拶とコーナーの概要説明があり、菊地附属図書館長から御祝辞、櫻井前医学分館長によるスイッチ・オンに引き続き検索実演が行われ盛況であった。

〔林医学分館長挨拶要旨〕

従来、二次資料は印刷物であったが、最近ではCD-ROMなど電子媒体でも発行され、医学界ではそれが主流になりつつある。これらは、コンピュータ検索技術により多様な検索が可能であり、各種のデータベースを個人的に、また費用のことを余り考えずに手軽に利用できるもので、利用者に

とり大変喜ばしく、将来の医学研究発展への貢献度には測り知れないものがあると思われる。

この構想は、櫻井前分館長のときに着想され、先頃完成を見たが、教務委員会のご尽力で医学教育システムも設置することができた。研究者だけでなく、学生も電子媒体のメリットを実感することができることは喜ばしい。

これらのうち、MEDLINEとCurrent Contents, Life Sci. は特に好評で、早速、利用時間の延長やパソコン増設の要望、さらに学内LAN(TAINS)を介し、研究室に居ながらにして、また、図書館閉館後の利用を希望する声もあり、附属図書館及び関係学部の一層のお力添えをお願いしたい。

〔菊地附属図書館長祝辞要旨〕

最近見た大学図書館間の相互利用の統計では、本学医学分館が文献情報提供側としてベストテンのトップグループに位置しており、全国の医学研究者から如何に期待を寄せられており、高い評価を得ているかがわかります。このことは医学界だけでなく、学界における本学のステータスをどれだけ高めているかということを実感しています。

新任館長に対する部長のレクチャーによれば、図書館の概念は、情報のストックからフローへ、蓄積から流通へと変化しつつあるそうです。その意味で、この情報検索コーナーは、図書館機能の流れに沿った新しい展開だと思っております。

林分館長をはじめ、医学分館の皆様の日頃の研鑽がこのような形で結実したことに敬意を表し、今後のご発展を期待いたしております。

(おの・かずお)

附 属 図 書 館 の 概 況

この概況は毎年実施される大学図書館実態調査のうち主な項目をとりまとめたものである。表1は昭和63年～平成2年度の概況、表2は平成2年度部局別のそれである。

表 1

区 分		昭和63年度	平成元年度	平成2年度
蔵 書	和	1,439,052 冊	1,475,956 冊	1,515,207 冊
	洋	1,400,807	1,436,085	1,470,257
	計	2,839,859	2,912,041	2,985,464
所 蔵 雑 誌 数	和	23,228 種	23,414 種	23,596 種
	洋	29,853	30,064	30,097
	計	53,081	53,478	53,693
年 間 受 入 数	和	40,020 冊	41,415 冊	38,790 冊
	洋	42,401	36,682	38,001
	計	82,421	78,097	76,791
年 間 雑 誌 受 入 数	和	9,969 種	10,075 種	10,237 種
	洋	11,098	11,169	11,323
	計	21,067	21,244	21,560
奉仕対象 者 数	学 生	15,331 人	15,518 人	15,616 人
	教 官	2,519	2,308	2,334
一人当り 奉仕対象	蔵 書 数 (冊)	158	163	166
	年間受入冊数 (冊)	5	4	4
	図書館資料費 (千円)	45	45	46
図 書 館 職 員 数	総 数	146	144	145
	専 任	80	79	79
	臨 時	66	65	66
図書館職員1人当り奉仕対象者数		122	124	124
図 書 館 資 料 費 (千 円)		807,961	797,503	830,427
大 学 総 経 費 (千 円)		62,147,000	65,844,001	67,674,000

表2

部 局		職員数 （正定員・嘱託・パート）	蔵 書（平成3年3月31日現在）						平 成 2 年 度			受 入 冊 数			平 成 2 年 度 経 費				施設（平成3年5月1日現在）						
			図 書（冊 数）			雑 誌（種類数）			図 書（冊 数）			雑 誌（種類数）			図 書 館 資 料 費				運営費 職員 給与除 （千円）	座席数 （席）	延面積 （㎡）	閲覧室 スペース （㎡）	書 庫 スペース （㎡）	収容可能 冊 数 （冊）	
			和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	図 書	雑 誌	その他	計							
本 館	本 館	62 (25)	587,794	308,168	895,962	11,210	11,937	23,147	14,355 (8,557)	5,377 (3,175)	19,732 (11,732)	2,006 (515)	959 (619)	2,965 (1,134)	85,826	45,076		130,902	182,901	1,101	18,215	4,180	6,847	1,451,472	
	文 字	2 (1)	188,794	109,767	298,561	937	745	1,682	7,975 (4,979)	3,680 (2,698)	11,655 (7,677)	833 (333)	577 (567)	1,410 (900)	56,354	10,601		66,955	3,716	1	68	2	10	4,972	
	教 育	3 (2)	45,157	29,736	74,893	865	345	1,210	1,472 (726)	826 (530)	2,298 (1,256)	489 (119)	254 (252)	743 (371)	10,160	5,673	405	16,238	3,712	20	268	89	90	11,950	
	法 学	3 (0)	84,439	111,472	195,911	891	553	1,444	2,128 (1,074)	4,562 (2,282)	6,690 (3,356)	658 (170)	420 (363)	1,078 (533)	37,070	8,797	8,830	54,697	2,665	33	699	65	444	59,667	
	経 済	5 (1)	149,450	143,058	292,508	1,379	931	2,310	2,958 (1,935)	2,545 (1,857)	5,503 (3,792)	768 (121)	478 (412)	1,246 (533)	33,257	18,371	268	51,896	5,734	18	282	45	125	27,472	
	選 研	2 (2)	7,093	14,267	21,360	253	273	526	174 (40)	303 (82)	477 (122)	131 (53)	125 (93)	256 (146)	2,684	8,308		10,992	3,993	16	246	37	144	25,972	
	科 研	2 (1)	4,129	14,056	18,185	283	136	419	39 (21)	347 (74)	386 (95)	254 (10)	110 (71)	364 (81)	1,574	8,707		10,281	2,475	20	574	58	375	36,556	
	流 体 研	2 (2)	11,665	16,703	28,368	85	257	342	216 (174)	409 (172)	625 (346)	253 (36)	215 (127)	468 (163)	4,140	8,537	19	12,696	4,097	8	212	27	163	30,125	
	通 研	2 (0)	6,700	16,944	23,644	134	266	400	209 (60)	744 (171)	953 (231)	97 (89)	172 (167)	269 (256)	2,570	13,990	193	16,753	1,933	10	335	59	247	31,777	
	反 応 研	2 (1)	5,912	19,797	25,709	99	229	328	187 (67)	695 (138)	882 (205)	60 (39)	132 (124)	192 (163)	4,338	15,000		19,338	3,251	28	331	63	252	39,389	
	応 情 研	()	505	1,365	1,870	4	29	33	4 (4)	35 (35)	39 (39)	4 (4)	35 (35)	39 (39)	430	890		1,320							
	マイクロロン	2 (2)	834	2,897	3,731	32	7	39	0 (0)	8 (8)	8 (8)	7 (7)	32 (32)	39 (39)	177	5,220		5,397	6,343	4	98	12	35	5,778	
	大 計	1 (1)	2,038	1,695	3,733	29	45	74	67 (46)	96 (57)	163 (103)	21 (21)	37 (36)	58 (57)	832	1,850		2,682	4,043	8	119	25	79	6,028	
	遺 生 研	2 (0)	17,468	10,818	28,286	332	275	607	148 (40)	231 (50)	379 (90)	202 (34)	237 (75)	439 (109)	966	4,403	80	5,449	482	10	206	18	160	32,638	
	計	90 (38)	1,111,978	800,743	1,912,721	16,533	16,028	32,561	29,932 (17,723)	19,858 (11,329)	49,790 (29,052)	5,783 (1,551)	3,783 (2,973)	9,566 (4,524)	240,378	155,423	9,795	405,596	225,345	1,277	21,653	4,680	8,971	1763,796	
医 学 分 館	21 (11)	136,644	205,611	342,255	1,755	4,971	6,726	3,728 (1,940)	5,603 (721)	9,331 (2,661)	1,172 (486)	2,746 (2,398)	3,918 (2,884)	28,266	102,503		130,769	47,567	327	4,025	256	2,190	418,222		
北 青 山 分 館	11 (5)	60,465	229,828	290,293	2,046	6,005	8,051	1,563 (711)	5,420 (1,212)	6,983 (1,923)	1,261 (787)	2,848 (1,931)	4,109 (2,718)	31,409	78,103		109,512	36,966	248	3,356	1,140	1,310	296,194		
工 学 分 館	11 (7)	129,928	141,562	271,490	1,695	1,684	3,379	2,430 (1,770)	4,379 (1,312)	6,809 (3,082)	1,060 (296)	1,073 (884)	2,133 (1,180)	43,217	66,295	4,385	113,897	31,590	210	2,712	1,194		96,527		
農 学 分 館	6 (2)	59,543	42,971	102,514	1,253	835	2,088	962 (592)	1,434 (238)	2,396 (830)	681 (125)	610 (310)	1,291 (435)	10,085	24,598	221	34,904	12,345	104	1,279	326	418	82,166		
計	49 (25)	386,580	619,972	1,006,552	6,749	13,495	20,244	8,683 (5,013)	16,836 (3,483)	25,519 (8,496)	4,174 (1,694)	7,277 (5,523)	11,451 (7,217)	112,977	271,499	4,606	389,082	128,468	889	11,372	2,916	3,918	893,109		
金 庫 研	6 (3)	16,649	49,542	66,191	314	574	886	175 (74)	1,307 (323)	1,482 (397)	280 (61)	263 (170)	543 (231)	9,171	25,815	763	35,749	7,391	20	693	28	584	64,667		
総 計	145 (66)	1,515,207	1,470,257	2,985,464	23,596	30,097	53,693	38,790 (22,810)	38,001 (15,135)	76,791 (37,945)	10,237 (3,306)	11,323 (8,666)	21,560 (11,972)	362,526	452,737	15,164	830,427	361,204	2,186	33,718	7,624	13,473	2,721,572		

記念資料室だより

平成3年度の記念資料室は、9月・10月の間に3度の特別展示を開催いたしました。

まず9月11日～16日には、理学部と共催で「東北大学理学部開講80周年記念展」を行いました。東北（帝国）大学の創立記念日は、設置の勅令が官報に公示された明治40（1907）年6月22日ですが、その時はまだ東北帝国大学理科大学は敷地も建物も無く教授も学生もいないという状況でした（後に北大となる札幌の東北帝国大学農科大学は、札幌農学校という前身があったので9月に開講）。

そこで、理科大学で実際に講義が始まった明治44年＝1911年から計算して80年の昨年1991年に、理学部は「開講」80周年の催しをいろいろ行い、この展示会もそのひとつだったわけです。

展示は、常設展示以外の本室所蔵関係資料は言うに及ばず、理学部各学科各研究室から、数多くの資料が出展されました。今回の展示は、古い時代を中心に構成したのですが、それぞれの分野で大きな業績をあげられた先生方の肖像画・写真・自筆論文・書翰・記録など、当時の東北大学の学術的雰囲気がよく伝わってきました。この展示会のパンフレットと主な展示内容の一覧、写真が記念資料室にありますので、関心のある方は片平の記念資料室まで、どうぞいらしてください。前二者については、残部をおあげいたします。

今回の展示会の成果をいくつか記しますと、次のようになります。

①小川正孝先生肖像画・モンロー電動計算機、偏光顕微鏡などの資料の寄贈を受けたこと。

②理学部・記念資料室相互の理解が深まったこ

と。

③理学部の先生方が自分たちの研究室の歴史を考える契機になったこと（いくつかの学科・研究室では、「学科史」・「研究室史」をまとめられるようです）。

この展示会の見学者は、約150名でした。

次に、9月20日～28日まで開かれたのが、「魯迅生誕110周年記念小展示会」です。魯迅生誕110周年の展示会は藤崎デパートでも行われましたが（本室はこちらの展示には企画・指導という立場でした）、片平の魯迅の学んだ教室や米ヶ袋の下宿跡（米ヶ袋）とあわせて、本室にも立ち寄る人がいるだろうからと、小規模ながら展示を行ったわけです。この時には、本室所蔵資料に加え、医学分館から当時の写真や教材をお借りし、展示を充実させました。この展示会の写真もございますので、関心のある方はおいでください。

そして10月末には旧制二高創立105周年の展示会を開催しました。これは、仙台で開かれた同窓会の総会・懇親会に合わせたものです。本室への問い合わせの内容では、二高に関するものは相変わらず多い状況にあります。来年度以降は、夏の寮歌祭の頃、宮城県女子専門学校・仙台高等工業専門学校もふくめた展示会を行なってみようなどと考えています。

最後になりますが、これらの展示会でお世話・ご尽力いただいた、理学部の諸先生、医学分館の小野事務長・阿部運用掛長、二高尚志会の方々に御礼申し上げます。

平成3年度東北大学附属図書館職員総合研修会

標記研修会が、東北大学附属図書館と東北地区大学図書館協議会の共催により、去る10月25日（金）当館において開催され、東北地区の国公立大学及び国立高等専門学校から22館97名という多数の参加があった。

研修テーマは、学術情報センターが平成4年4月より稼働を予定している ILL（図書館間相互貸借）システムについてであった。

初めに講師の雨森学術情報センター事業部長から、「当システム学術情報センター事業の目的の一つである学術情報流通の促進の最終段階に位置づけられるものであり、このシステムの稼働により、情報資源の共有がより一層促進され、大学図書館における研究機能の全面的展開のための基盤

が整備されることになる」等 ILL システムの位置づけ及びここに至るまでの施策の実施経過など興味深い講演があった。

引き続き、同センターの甲斐専門・電子情報係長より、学術情報センターのホストコンピュータにオンラインで継続された端末機を用いて、当システムの機能及び具体的な操作法の説明があった。

ILL システムは、現在図書館関係者にとって最大の関心事の一つであり講演終了後、当システムに参加する際の問題点等について活発な質疑応答がおこなわれた。

（総合研修委員会）

平成3年度情報検索担当者会議

東北地区医学図書館協議会の主催、日本科学技術情報センター（JICST）東北支所の後援による標記会議が、平成3年11月28日と29日の2日間、本学医学分館において行われた。

この会議は、本協議会加盟7館および東北地区所在の医療機関の情報検索担当者が一堂に会し、医学情報検索技術のレベルアップのため、医学系データベースの解説、検索の事例研究、情報交換ならびに検索実習等を行うものであり、23名の参加があった。

第1日は、櫻井医学文館長と JICST 今井東北支所長の挨拶、鈴木博 JICST 検索課専門員による「医学関連ファイルの解説」と題する講演に引き続き、今回特に力点をおいた医学・医療の現場における最近のトピックから選んだ事例研究の

検索テーマについて、同氏の懇切な解説が行われた。

質疑・応答、意見の交換等も活発で、東北地区の水準の高さを窺わせるものがあったといえてよい。

第二日は、受講者が2班に別れ、事例研究等で出された課題についての検討と参加者による検索実習を行い、オンライン検索技術の向上に資するところ大であった。

また、時間外に行われた懇親会では、各館の実情や問題点にも話題が及んだが、とりわけ検索上での疑問点が出た場合、この会議で友誼を深めた講師・受講者間で協力し合うことが話し合われ、東北地区における人的協力ネットワークの成立が見込まれたことも本会議の大きな成果であった。

（医学分館）

第46回東北地区大学図書館協議会総会

第46回東北地区大学図書館協議会総会は、平成3年9月26日～27日の両日、石巻専修大学図書館を会場に、国・公・私立大学の加盟館52館から38館78名が参加して開催された。

会場館石巻専修大学学務課武山課長補佐の司会で開会され、石巻専修大学渡辺館長、小倉学長、常任幹事館東北大学勾坂館長より各々挨拶があり、次いで議長団の選出を行い議事に入った。

本総会では、平成2年4月開学した、岩手県立宮古短期大学附属図書館からの加盟申請が承認され、加盟館数は53となった。

総会における主な協議事項は、以下のとおりである。

1. 報告事項

平成2年度会務報告、一般報告、平成2年度決算報告並びに監査報告の後、東北大学附属図書館相互利用掛長松井好次氏から学術情報センターで、平成4年4月より稼働を予定している ILL(図書館間相互貸借)システムについて、去る、9月9日学術情報センターで開催された、第一回 ILL システム開発協力者会議で協議された内容について報告が行われた。

2. 協議事項

(1) 役員館の改選

役員館の任期満了に伴い、協議会会則、学術奨励規程に基づき次の役員館が選出され、承認された。

幹事館：東北大学、岩手大学、福島県立会津短期大学、宮城学院女子大学、石巻専修大学

論文審査館：東北大学、岩手大学、山形県

立米沢女子短期大学、日本大学工学部、東北薬科大学

会計監査館：宮城県農業短期大学、東北福祉大学

常任幹事館：東北大学

(2) 会則及び規程の改正

① 協議会会則の改正

前総会において、本協議会の事業を実施する上で、現行会費で困難ではないかとの意見があり、幹事館会議に会則の改正(会費値上)案の検討を付託されていたが、今総会で改正案が承認された。

② 表彰規程の改正

現行規程による表彰は、総会席上で行うことになっているが、代理受領が現状であるので、表彰の実施方法について幹事館会議で検討する旨付託された表彰規程の改正案が承認された。

3. 永年勤続表彰

渋谷昌克氏(元福島大学)

本田 亨氏(元福島県立医科大学)

八巻基子氏(元東北大学電気通信研究所)

米沢 彰氏(元東北大学医学分館)

4. 記念講演

本総会における記念講演は、私達が耳にすることの出来ない、法医学上の立場から勾坂馨東北大学医学部教授(法医学講座)、附属図書館長より、「親子鑑定の実際」をテーマに講演が行われた。

5. その他

第47回総会は、岩手地区が担当し、当番館富士大学において開催されることになり、田辺館長の挨拶が行われた。

会 議

◎学内

11.20 第3回附属図書館商議会

協議事項

- (1) 完全週休二日制について
- (2) 本学図書館システムの構成要素について
- (3) 当面の諸問題について

報告事項

- (1) 国立大学図書館協議会理事会について
- (2) 第63次国立七大学附属図書館協議会について
- (3) 狩野文庫マイクロ化事業計画の進捗状況について
- (4) ILL(図書館間相互貸借)システムの改善について
- (5) 各分館からの報告について

◎学外

4.1.17 第2回図書館資料保存協力懇談会

(於：国立国会図書館)

4.4.23～24 国立大学図書館東北地区協議会

(於：東北大学附属図書館)

4.5.中旬 第13回 EDC セミナー

(於：東北大学附属図書館)

4.6.26～28 国立大学図書館協議会総会

(於：帯広畜産大学)

◎行事(研修会及び講習会含む)

3.4.15～17 新人研修(本館)

(於：会議室)

3.6.6 東北地区大学図書館協議会幹事会

(於：会議室)

3.7.8～12 目録システム講習会(地域講習会)

(於：2号館システム研修室)

3.10.25～26 職員総合研修会

(於：2号館会議室)

3.11.25 「狩野文庫マイクロ化プロジェクト」

狩野文庫マイクロセンター開所式

3.11.26 狩野文庫マイクロ撮影開始

3.11.26～28 全学システム講習会

(於：2号館システム研修室)

4.1.24 ILL システム全国説明会(東北地区)

(於：2号館会議室)



人 事 異 動

発令 年月日	旧官職	氏名	新官職	備考
3.11.1	附属図書館長	川嶋佐智子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	採用 解任 併任 退職
3.12.1		勾坂馨	附属図書館長	
〃		菊地和聖		
12.28	事務補佐員（農学分館図書掛）	遠藤美貴子		

前回発行の人事異動の事項について、記載もれがありましたので、下記のとおり追加訂正してお詫びいたします。

発令 年月日	旧官職	氏名	新官職	備考
3.3.31	医学分館運用掛長	米 沢 彰		停年退職
〃	電気通信研究所図書掛長	八 巻 基 子		〃

編 集 後 記

本学図書館における「今後の課題」として、いくつかの項目の中に「図書館広報の改善」が上げられています。図書館活動については従来から館報を通じてお知らせしておりましたが、昨年5月から新しく広報委員会が設置され編集作業のスタートを開始いたしました。

新広報委員会は、館報と年次報告、図書館業務情報誌を介して図書館広報を展開します。ご期待ください。

今回発行の館報は3-4号合併とし、昨年11月25日撮影を開始しました狩野文庫マイクロ化プロジェクトを特集としました。今、館界では図書館資

料の「保存と利用」が問われています。いくつかの視点から論じてもらいました。

図書館の利用者へのサービスも変わりつつあります。その一つは、本年4月から稼動する学術情報センターのILLシステムです。また、ニューメディアの出現で、図書館も利用者の要求に合ったサービスの検討がせままれています。

館報は、このような環境の変化に対しても、新たな問題を提起していきたいと考えています。

これからも、皆様から愛される図書館報を編集して行きたいと思っておりますので、各位のご協力をお願いいたします。